

塚本 雅久

塚本雅久建築設計事務所

【作品名】

38×38のフレーム

設計 塚本雅久建築設計事務所

施工 塚本雅久

竣工日 2018年8月22日

◎建物概要

建設地	岡山県笠岡市	延床面積	214.66㎡
敷地面積	201.68㎡	構造・規模	木造2階建

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター(既存設備)
給湯機器	電気温水器(既存設備)
冷暖房機器	エアコン

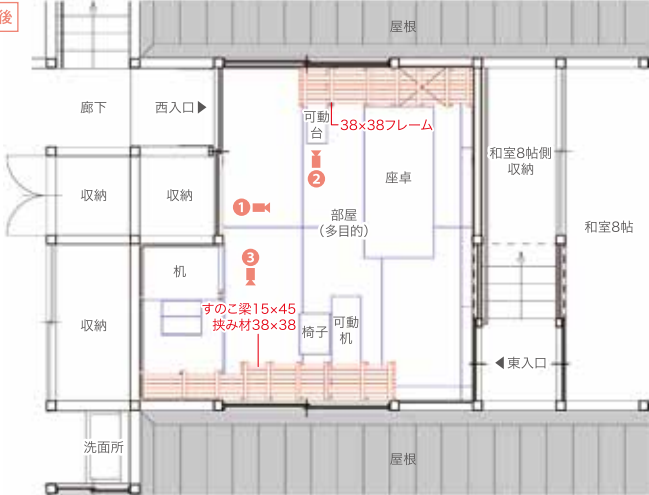
平面図



リフォーム前



リフォーム後



設計コンセプト

仕事を通じて、2階の多くの部屋が物置となっているのを見てきた。その事例を有効利用する計画を自邸でプロトタイプとして行った。停滞しているスペースの利用価値を上げ、構造補強とともに物置であった用途にも対応するため、収納を重視し用途の変化にも柔軟に対応していく計画とした。居室のみの狭い範囲を工事するので、DIYでも可能な施工性を重視。38×38の木材を主材とし、全てホームセンターで購入できるものを選定しており、工事は全て設計者一人がしている。「38×38のフレーム」を挿入し「すのこ状梁」「竿縁挟み梁」「可動家具」で構成した。38×38の木材を主材と15×45の木材、合板を使い木ビスで接合している。軽い材料は運搬、切断も容易である。断面が小さいため始めは頼りないが、工事が進むにつれ材の数が増えるごとにテンションが上がり強靱となる。棚で構成された空間と

なり、収納は可動家具の机、椅子、座卓、踏台と絡み合い空間のレベル差を構成している。さらに既存天井を撤去し、風の対流を促し開放感のある空間とした。電化住宅であるので、エアコンを設置、LED照明を採用している。既存材料との関係性も重視し、大梁は強く主張するデザインではなく、格子のフィルターにぼんやり浮かんでいるようなイメージとした。天井部もフレーム構成の要素であり平面的な剛性を確保し、照明に照らされると前面道路からの立面を構成する。綿壁も撤去する事なく、その上に塗装する試みをしている。現時点では多目的に利用する部屋となり、遊具ともなっている。将来的には、子どもの部屋となる予定であり38×38のフレームが柔軟に対応する。

審査委員講評

「建築家の志とは」。その答えが、自邸でプロトタイプとした新たな実験として結実しました。建物内にある物置などを有効利用する手軽なリフォームの提案は、ホームセンターで購入できる38×38の木材を使ったDIY。最初のクライアントである家族の遠慮のない反応を糧に、さらなるバージョンアップを期待しましょう。



before

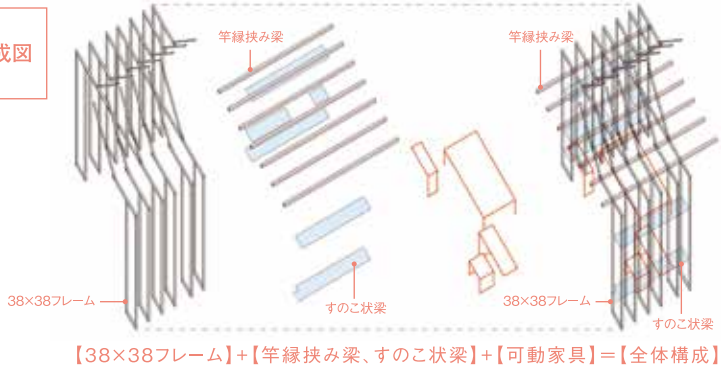


after



①②③可動家具を38×38のフレームに接続し構成している。机、椅子、座卓、台(踏台)はレベルが違うので空間の構成にもなり、可動するため、収納可能である。すのこ梁のフラットな面が必要な時は、板を渡し大物に対応し、柔軟に変化する。

構成図



可動家具の設置時



可動家具の収納時



すのこ状梁



すのこ状梁・合板設置